

令和 4(2022) 年度の事業報告書

法人設立の日から令和 5 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人イナクル

1 事業の成果

今年度は、任意団体である長期入院の子どもと付き添い家族を支える会からの移行準備期間のため、助成金の関係で、事業資金は長期入院の子どもと付き添い家族を支える会での活動となったが、活動はイナクルとしても行った。

移行期間ながらも、病院や大学など関係施設との連携など、病児とその家族への必要な手立てを模索したり、今後の事業につながる取り組みを行えた。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施予定日時 (B) 当該事業の 実施予定場所 (C) 従事者の 予定人数	(D) 受益対象 者の範囲 (E) 予定人数	事業費の 予算額 (単位：千円)
(1) 病児とその家族に対する生活支援事業	付き添い家族へ手づくり弁当の無償配布	(A) 毎月 7 回程度 (B) 市内小児がん拠点病院小児病棟 (C) 5 人	(D) 北大病院と札医大病院に入院する病児とその家族 (E) 総数延べ 1277 人 北大利用者 762 人 札医大利用者 515 人	0
(1) 病児とその家族に対する生活支援事業	病児と付き添い家族へ無添加レトルト食品と無添加フリーズドライ食品の差し入れ	(A) 年 2 回実施 (8 月と 2 月) (B) 市内小児がん拠点病院小児病棟 (C) 2 人	(D) 市内小児がん拠点病院 (4 病院) に入院する病児とその家族 (E) 120 セット配布	0
(1) 病児とその家族に対する生活支援事業	ニット帽 カテテルカバー ドリップバック コーヒなど おむつ、おしりふきなど	(A) 適宜、事務所に届いたものをお弁当お届け時に付き添い家族、病棟へお届け	(D) 北大病院、札医大病院に入院する病児とその家族	0
(1) 病児とその家族に対する生活支援事業	退院後の病児と付き添い家族へのリフレッシュケアサポート	(A) 申し込み時、サロン形式で実施 (B) 市内のサロンまたは病児とその家族の自宅 (C) 10 人	(D) 病児の長期入院に付き添っていた家族 (E) 20 人	0

(2) 病児とその家族が地域社会と共生できるように必要な支援事業	病児の家族が抱える悩みや不安を共有できる場の提供	(A) 年 2 回（クラニオサロン時に実施） (B) 市内のサロン (C) 5 人	(D) 病児の長期入院に付き添っていた家族 (E) 10 人	0
(2) 病児とその家族が地域社会と共生できるように必要な支援事業	多世代型コミュニティの開設	(A) 月 2 回実施 (B) 地域の会館 (C) 3-4 人	(D) 病児とその家族 (E) 本事業利用の利用者多数 2022 年 11 月～の来所者数は、113 人 平均来所者数 12 名	0
(3) 病児とその家族に関する調査研究の情報提供	病児の長期入院に付き添う際の不安や問題解決のための情報提供サービスの構築、当事者同士の相談窓口の開設	(A) ホームページ開設後～継続実施 (B) 主たる事務所および自宅 (C) 3 人	(D) 病児の長期入院に付き添っていた家族 (E) 本事業利用対象のホームページ閲覧者不特定多数	0
(4) 病児とその家族に関する政策提言、関係機関との連携促進にかかわる事業	これまで任意団体として活動する中で、必要なことを検討し模索し始めている段階	(A) 通年、会議ごと (B) 事務所や各自の自宅（オンライン会議） (C) 6 人	(D) 病児とその家族、病児が入院している小児病棟 (E) 本事業利用の利用者多数	0
(5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業	今後、法人として活動を展開していく中で、必要となりそのために取り組む、まだ見ぬ事業	(A) 通年 (B) 事務所など (C) 10 人	(D) 病児とその家族 (E) 本事業利用の利用者多数	0